

# 東九州支部報

第79号

公益社団法人日本山岳会東九州支部 2017年10月25日(水)発行



第16回青少年体験登山大会・9月10日(日) 久住山頂にて

目 次

1. 支部活動報告		三角点と山城探訪シリーズ(第 23 回)	11
第16回青少年体験登山大会	2	私の無名山ガイドブック(第66回)	12
健脚組の報告	3	大分百山完登(NO4)	13
元気組の報告	3	槍・穂高縦走2題 大キレット歩き	13
五葉岳(7月月例山行)	4	穂高縦走を終えて	14
山の日登山・in・おおいた 霊山	5	ヒマラヤトレッキング	15
くじゅう山遭難碑・案内板設置	5	3. 会務報告	
スズタケ枯死シカの食害調査(第10回)	6	支部合同会議出席報告	15
研修山行報告・神原川	7	第5回登山入門教室開講	16
研修山行報告・サマン谷	8	支部の各種会議	17
2. 個人投稿		4. お知らせコーナー	18
ペンリレー(第25回)「谷川岳の思い出」	9	新入会員・準会員・会友紹介	20
より安全な登山のために(NO26)	9	後記	20

## 第16回青少年体験登山

飯田勝之(10912)

第16回を迎える青少年体験登山大会(青少年体験 教室)は9月10日(日)、79名で盛大に実施された。 今年もバス利用の参加希望が多く、大型バス一台がほ ぼ満席の予約となり、昨年と同様に支部会員の中には 牧ノ峠現地集合に切り替えをお願いする事態となった。

近年毎年参加し、大会を賑やかにしてくれる大分工 業高校山岳部や別府鶴見ヶ丘高校登山同好会は、今年 は学校行事等の都合で参加られなかったが、18名の 青少年の参加が得られた

バスは大分駅を定刻より10分ほど遅れて出発。バ スの中で先ずは加藤支部長が挨拶、そのあとは車内登 山教室で、楽しく、そしてより楽に安全に山登りをす るノウハウなどの講義、さらに、山登りの道具や装備 の選び方や使い方などの話しも続く。

水分峠の道の駅でトイレ休憩の後、バスは8時40 分に牧ノ戸峠に到着。現地集合組も合わせて、レスト ハウス横の広場でオリエンテーションで、加藤支部長 の挨拶のあと、1日の行動予定の説明。出発前の準備 体操、そして参加者の自主申告による組編成は健脚組、 元気組、のんびり組と別れる。

この組編制は毎年恒例で、『健脚組』は行きに中岳ま で足を延ばして久住山へ、そして帰りは星生山を経由 して牧ノ戸峠へ下山。『元気組』は登りに星生山経由で 久住山へ、そして帰りはのんびり組と合流。『のんびり 組』は牧ノ戸峠から久住山まで往復のコースだ。

健朏組にはリーダーに指原里美、サブリーダーに堤 芽生の両女子青年部員が担当。元気組はリーダーに久 保洋一、サブリーダー丹生浩司、若月美智子両会員が あたった。また、のんびり組は人数が多いので13~ 4名の3つの班に分けて、A班には園田暉明、中島洋 祐両会員、B班には宮原照昭、桜井依里会員C班には 薬師寺正憲、浅野総一両会員と尾家暁夫準会員がリー ダーとなって出発した。

天気は薄曇りで、さほど強い日射しもなくて、ちょ うど良い山登り日和となった。牧ノ戸峠から沓掛山肩 までの最初のきつい登りで、先頭を行く早足の健脚組 から、のんびり組ののんびり歩きの最後尾まで間に、 もう大きな開きができて、5つに分かれた長い隊列が 扇ヶ鼻分岐への長い稜線に続いた。

今年の参加者は最年少が6歳(小1)で最高齢者が

82歳と実に76年の年齢差のある登山隊であるが、 みんな元気でペースも良く、のんびり組の先頭が久住 山頂に着いたのは予定の時刻より15分も早い、11 時45分だった。そのあと続々と各組が到着し、最後 に元気組の全員が12時15分に着いた。

薄曇りの空は日射しも弱く、心配していた暑さはな く、むしろ吹く風が涼しすぎるほどである。多少モヤ がかかって、阿蘇や祖母などの遠景の眺望は今ひとつ であったが、山頂を取り巻く九重連山のやさしいなだ らかな峰々の連なり、遠くに霞む由布岳や万年山、眼 下に広がる久住高原の雄大な景色などに感嘆の声が聞 こえる。

山頂でそれぞれ弁当を開いて昼食。そして12時4 5分に山頂で全員集合の記念写真の撮影。そのあと下 山開始である。先に出発した健朏組は星生山経由だ。 下山を始めるとすぐに、かなり隊列が乱れたので。久 住分かれ避難小屋前の広場で各組、班ごとに点呼して、 隊列を整えて再出発。

午後3時10分、先頭が牧ノ戸峠に下山に。その後 各班入り乱れて3時30分には参加者全員が牧ノ戸峠 ヘ下山した。

心配していた天気は終始薄曇りの登山日和で、参加 者は全員事故もけがもなく皆元気に下山。レストハウ ス横の広場で閉会式では最年少の藤川成君小1・6歳 にインタビュー 「きつかった?」 「うん、ちょっときつ かった」「また来年来たい?」「ううん」。また最年長の 後藤栄一さん(82歳)は「来年も是非参加したい」 と元気な声である。

現地集合組は解散。貸し切りバス利用者は、大分駅 午後5時30分解散で、全日程を終えた。



(久住山頂目ざして)

支部参加者…加藤英彦、飯田勝之、木本義雄、園田暉 明、久保洋一、下川智子、中島洋佑、浅野総一、桜井 依里、薬師寺正憲、宮原照昭、若月美智子、土屋多喜 子、丹生浩司、大渡崇夫、唐津敏徳、神田美代子(以 上会員)、尾家暁夫、久知良美登里(以上準会員)、長 野珪子、柳瀬里子、藤沢あさみ、井上紀代美、飯田ひ とみ、堤芽生、指原里美(以上会友)

## **元怎各組の報**

### 健脚組の報告

#### 芽生(会友208) 堤

健闘組は、牧ノ戸峠~久住別れ~中岳~久住山~星 生山~牧ノ戸峠のコース内容で行いました。私を含む 青年部2名をリーダー、副リーダーとして、参加者8 名の計10名が集まりました。そのうち、女性・男性 ともに5名ずつで、高校生から70代の方まで幅広い 年齢層でした。

開会式後、準備体操・参加者の確認等を済ませ、指 原リーダーを先頭として私は列の最後尾につき、牧ノ 戸峠を9時に出発しました。先に出発していた元気組 を最初の休憩ポイントで後にして先を進みました。大 幅な乱れもなく、久住別れを進みました。

その後、中岳へ天狗ヶ城経由組と御池をまわる組そ れぞれら名ずつに分かれ登頂を目指しました。天狗ヶ 城経由組が先に登頂後、おおよそ11時半に全員中岳 山頂に揃いました。

次は、久住山を目指しました。久住山の最後の急登 にさしかかった辺りから、70代男性の方のペースが 落ちました。その方は、列の後方を歩いていたため、 最後尾を引率していた私、参加者の50代男性の計3 名はペースを落とし、他7名は先に久住山山頂へ向か いました。

3名で登っている間、70代男性の方の荷物を50 代男性が持っていただいたおかげで、ペースの改善が みらえました。数十分差がありましたが、無事に久住 山山頂におおよそ12時半前に登頂しました。

昼食後、人数が10名から9名に(70代男性がの んびり組へ移行)なり星生山へ向け出発しました。稜 線にでるまでの急登で、私の前を歩いていた50代夫 婦、先頭集団より少しペースが落ち「この速さ、厳し いな・・・・」と話していました。確かに登りに対し ての速さは、20代の私にとっても苦しく感じました。 稜線に出たところで「私たちゆっくり行きます。」と 50代夫婦は組を離れることになってしまいました。 残りの7名で予定通り、星生山登頂することができま

した。その後は、のんびり組と合流しながら牧ノ戸峠 に無事に下山することができました。

最後に、今回私は健脚組の最後尾で引率させていた だきました。そこで考えさせられたことは、上記で報 告した70代男性や50代夫婦の出来事についてです。 今回の会は月例会とは異なり、山岳会以外の方に来て いただいていました。それは今後の入会へ繋げるため の会でもあったのではないかと考えました。

ペースを合わせ、組の全員で登頂・下山することで、 集団登山の良さを更に伝えることができたのではない かと、反省が先行する日となりました。

## 健脚組の報告

#### 丹生浩司(16103)

今年も私たちは孫二人と第16回青少年登山大会に 参加。絶好の登山日和となり竹田周りで牧ノ戸へ、す でに駐車場はいっぱいで道路わきの駐車スペースに止 め広場に行くと受付では会員の方がスタンバイ。受付 を済ませ大分駅発のバスを待つ。

全員がそろってコース分けを行う。私たちは孫の希 望で元気組に参加。支部長の挨拶のあと簡単に体操を 行った後、健脚組、そのあとに元気組、最後はのんび り組の順に出発。

私たち元気組はリーダー久保さんを先頭に星生山を めざしコンクリートの坂を登る。25 分くらいで最初 の休憩場所に到着すると各々に水や行動食を食べた後、 のんびり組が到着する前に出発。元気組は小学生、高 校生、一般の参加者など総勢20名。

小学生の子供たちは元気組の名前の通り元気で我先 にと前に出る。そんな子供たちに注意しながら見守り、 列を整える。西千里の入り口まで来た。ここからコー スを左にとりリーダーに続き星牛山への急登をジグザ グに登っていく。

がれ場に注意し、一歩ずつ登るとほどなく山頂に到 着。頂上から西千里を見ればのんびり組の人たちが手 を振っているのが見える。それに応えた後、思い思い に写真を撮り出発。ここからは危険な岩稜帯となるた め会員を要所要所に配置し子供たちに気を配りながら 下っていく。

久住分かれでトイレを済ませた後、久住山を目指し 登る。12時15分久住山頂に到着。のんびり組も健 脚組もすでに到着し昼食を摂っている。私たちもさっ そく昼食を食べ、下山前に全員で記念写真を撮った後 健脚組より下山開始。

久住分かれ、扇鼻分岐で最後の休憩をした後沓掛山 を目指して歩く。沓掛山では支部長が手を振り皆を待 ってくれていた。牧ノ戸に到着すると皆アイスを食べ たりジュースを飲んだりしながら全員が揃うのを待つ。 事務局の連絡のあと解散。孫二人はまた来年も参加し たいと話すが、ほどなくすると車の中で爆睡。 楽しい青少年登山となりました。ありがとうございま した。

## 五葉岳(1569.6m)

7月月例山行報告

草野和美(会友206)

7月9日(日)、台風通過、福岡・大分豪雨と続く梅 雨空の中、お姫山, 五葉岳を目指して、午前6:00大分 駅南口を出発。6:30 戸次にて別府組と合流し、総勢9 名で出発です。国道57号線を走り、三重町から国道3 26号を宇目町のほうへ向かいます。宇目より県道6 号線に入り杉ケ越トンネルを抜けて宮崎県へ。

途中のトイレ休憩で、日隠林道は悪路でゆっくり走 行しなければならないと聞く。見立鉱山あとを過ぎて 中島橋を渡り日隠林道に入り、さらに進むと、未舗装 の荒れた路面になってきます。落石や倒木があり、ゆ っくり進みますが、何度も車の底をこすってしまいま す。

林道の悪路を1時間ほどかかり登山口に到着しまし た。到着を待っていたかのようにパラパラと雨が落ち 始めました。雨具をつけ、ストレッチ後の出発のころ には雨はやみましたが、雲行きは怪しいようです。

日之影町の森林セラピー基地と看板のある、お化粧 山登山口を9:30に出発です。登山口及び登山道には、 終盤のフタリシズカが(中には3人・4人も)、「よく ここまできましたね」と迎えてくれますが、植林帯の 急坂が続きます。

ジグザグの坂道、ウグイスの爽やかな鳴き声に心を 癒されながらしばらくの間登っていくと、山シャクヤ クの群生がお出迎です。だが残念ながらすでに花は終 わり、小さな実を膨らませています。

稜線に出る手前頃から、また雨が降り始め、再度雨 具を着装します。「大降りになったら下山します」との ことなので、とりあえずブナの三差路に向かい急ぎま す。しかし、雨脚はひどくなる一方。11:20ブナの三 差路に着いた(今日の登山で一番高い標高)頃には、 雨も風も強くなってきました。



(ブナの三叉路にて)

記念写真を撮り、急いで下山開始。少し降りたとこ ろの、やや平らな雨をしのげる場所で昼食とします。 帰りの道のことが心配になり、昼食もそこそこに、一 気に登山口まで降りてきました。12:50 帰りもまた、 凸凹の道を車の底をこすりながらの走行です。

朝のトイレ休憩の場所で、飯田さんより途中に通過 したお化粧山の由来を聞きました。昔、遊女が山を越 え鉱山を見下ろすこの場所で身づくろいし、化粧を直 したことに由来するそうです。私はお化粧山を、雨で 見落としてしましました。また、今も谷底に残ってい るという、鉱山で身体を売って、病気で死んでいった 遊女達の墓の話し・・、大吹鉱山の悲しい伝説の山と 知りました。

当初、お化粧山、お姫山、五葉岳と三座踏む予定で したが、雨のため一座のみとなりました。インパクト のある悪路・昔栄えた鉱山の歴史に眠る悲話の山・こ の山までもう一度来ることがあるだろうかとの思いと ともに、記憶に残る山行きとなりました。最後に、リ ーダーの方、車を出していただいた方、悪路を本当に ありがとうございました。感謝・感謝です。

参加者…リーダー中野稔、飯田勝之、中島洋祐、遠 江洋子、芝田寿一、岩崎真琴、木下恵子、草野和美、 指原里美

## ふるさどの山を登ろう in おおいた 霊山

### 山の日登山の実施

飯田勝之(10912)

昨年から始まった「山の日」。これを記念して施行年 の行事として、昨年は大分県内の主要山岳団体である 大分県山岳連盟・大分勤労者山岳連盟・全九州アルバ インガイドクラブに呼びかけて、四団体で「大分県『山 の日』記念登山大会事実行委員会」(委員長・加藤支部 長)を立ち上げて、久住分かれで盛大に記念大会を開 催した。

今年も山の日にちなんだ登山行事を実施しようとい うことで、同じ四団体が合意に至り、名称も「大分県 山の日登山実行委員会」(実行委員長は同じ) として再 スタートして打ち合わせを行った。

そこで決まったのが1つこれからも毎年山の日登山を 実施しよう②テーマをふるさとの山に登ろうというこ とにして毎年順番に各市町村の身近な山に登ろう③ 「山の日」の趣旨と登山の浸透をはかるため広く一般 にも参加を呼びかけて実施しようということである。

その最初の年の皮切りは大分市で、市民に一番馴染 みの深い霊川(りょうぜん・610m)を選んで **川の日登** 山・ふるさとの山に登ろうinおおいた・霊山』とし て一般市民に呼びかけての登山会の実施である。

山の日の8月11日(金)午前9時、集合場所の大 分市「七瀬川自然公園」に集まったのは、山麓地域の スポーツクラブ「わさだ夢クラブ」をはじめ、市内の 小中学生から地元のお年寄りまで約100名。はじめ に加藤実行委員長があいさつ。続いて副実行委員長の 波多野県岳連会長によるオリエンテーション、準備体 操などのあと、グループ分けをして隊列を組んで登山 を開始である。

コースは、登りは秋岡集落を抜けて古い霊山登山道 で、下りは山頂から三角点を通って内稙田経由で七瀬 川自然公園までである。

長い列が住宅地を抜けて山麓へと続いた。公園から 山頂までの高度差は約600mである。連日の炎天下 の暑さが続く中であったが、幸いにも霊山は全山が照 葉樹林とスギの植林地の中なので、山道にはいるとほ とんど日陰の中だ。

約3時間かけて全員山頂に到着。記念品のミニスタ ッフ袋を配り、記念写真などを撮ったあと昼食。そし

てそのあとはグループごとに下山である。午後3時過 ぎには内稙田から出発地の公園へ、全員が下山して流 れ解散で、事故もなく山の日の行事を終えた。来年の 「山の日登山」は別府市の予定となっている。



(霊山頂上にて)

## くじゅう山遭難碑 案内板の設置について

加藤英彦(8765)

くじゅう山の池の小屋より270m上部に設置され ている遭難碑。これは昭和5年8月11日くじゅう山 での始めての遭難事故を追悼するために翌年昭和6年 8月に設置された遭難碑である。

我が支部では平成22年8月第一日曜日にこの碑の 前で「川の安全を祈る集」、」を行っている。

これは法華院温泉との共催という型で行われており 法華院温泉では「九重慰霊の日」と称している。今年 で8回目の真夏の行事として定着している。

さてその忘れられたようにひっそりと建っている遭 難碑、世に広く知られていないその碑に案内板を設置 したらという提案がなされた。そこでその許可を申請 すべく小屋の管理者である大分森林管理署におねがい に上がった。

それが平成28年6月。民間での申請は有料となる。 行政を通して申請がよいだろう。そこで竹田市久住支 所に申請をお願いして許可を受けるという行動にかか

った。

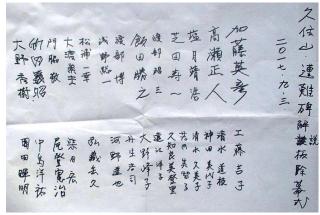
現地視察をしながら今年6月に「案内板設置計画書」を作成。竹田市から森林管理署に提出。平成29年7月31日付け、貸付者森林管理署、借受人竹田市長とする「国有林野無償貸付契約書」が結ばれたことにより、許可されたこととなり8月1日と4日に設置工事をおこなった。

そして設置工事の写真入り報告書を竹田市久住支所に提出する。ところが予定の8月6日はあいにくの台風5号の影響で行事延期、9月3日の日曜日の28名の参加のもと案内板設置の除幕式セレモニーを池の小屋前にておこなった。そしてそのあと、遭難慰霊碑前で恒例の山の安全を祈る集いを、弘蔵法華院堂主の読経のもとで行われた。

一連の動きは常にこの案内板設置の提案者である尾登会員と共に相談してすすめた。そしてこの碑の再建から補強工事、そして今回の案内板設置に関してのすべての申請の書類作成から工事については私の山の友人、「高瀬正人」君がすべておこなった、大変ありがとうございました。

何回かの現地までの荷揚げや、工事手伝いにも何人かの会員の手を煩わせることとなったが、手伝いされた方々にこの紙面をかりて感謝もうしあげます。 尚この一連の行事については8月11日大分合同新聞の「論説」山の日、と9月6日「東西南北」に記事として掲載された。そして映像として尾登作「完結、遭難慰霊碑ものがたり」としてDVD化されている。

参加者…加藤英彦、飯田勝之、園田暉明、塩月靖晴、中島洋祐、浅野総一、工藤吉子、若月美智子、丹生浩司、大渡崇夫、尾登憲治、神田美代子、河野達也、久知良美登里、渡辺昭三、遠江洋子、芝田寿一、清水道枝、清水久美子、松浦一幸、



(当日参加者のサイン)



(避難) 屋に設置した案内板の前で)



遭難碑前で慰霊と安全祈願(読経する弘蔵氏)

## スズタケ枯死とシカの食害調査

(10回目) 飯田勝之(10912)

去る9月30日(土)、大分県植物研究会との共同作業で行う、今年2回目のスズタケ枯死とシカの食害状況調査作業が本谷山西の稜線で行われた。

当初、植物研究会が県の委託を受けて実施していたこの調査を、当会支部が公益法人として出発するにあたり、スズタケ枯死の実態調査を手がけようと計画していたことが伝わり、平成25年6月に、最初の共同作業で実施するようになったのが始まりである。そして、県の委託調査期間は昨年度で終了したが、調査は今後も継続し行けばもっと詳しいことが分かってくるかもしれないということで、両者で協力して調査を続けることとなって二回目の作業である。

予定は毎年6月と10月の第一土曜日に実施するこ とになっていたが、この秋の当初の予定では10月 7・8に日韓国山岳会蔚山支部を迎えることになって いたために、一週間早めて実施の予定となった。

いつもの通り、緒方町の道に駅「原尻の滝」で集合 したのは、当方が7名、植物研究会が6名、それに県 に自然保護推進室から4名の参加である。

ここで乗り合わせして、車の数を減して尾平トンネ ルの南側広場に再集合。そして、すぐ尾平越えの稜線 に向けて登山開始である。

約30分の登りで旧尾平越に到着。ここでいつもの 通り、スズタケの定点観測組と、稜線の樹木のシカに よる皮剥ぎ調査の2組に分かれる。定点観測組は一路 標高 1380m の調査地点へ直行だ。

シカの皮剥ぎ調査は、尾平越からさっそく稜線沿い に見られる、シカが食べて樹皮が剥げている樹木の調 査開始。半年前の調査時にはあまり新しい食害樹木は 見当たらなかったが、今回は相当数の樹に皮を剥がれ ているのが見られた。

そのほとんどがリョウブ、ヒメシャラ、ナツツバキ で、そのほかには時々サワフタギやエゴ、カマツカな どにも喰われた跡が見られた。それらの樹の一本一本 の名前、直径、喰い剥がれた皮の範囲の長さ、かじっ た歯形の有無などを記録していくのである。

一方、定点観測組はネットで囲った中と、囲ってい ないところの、同じ面積の中のスズタケの成長状況を、 一定枡の中の夕ケの長さを克明に測って記録していく という、いつもの実に根気の要る作業である。

ネットで囲った中はシカの食害がないために、大き く高く成長して、一旦枯死したスズタケが復元してい く様が見られるが、囲っていない部分はその成長点の 新芽の部分をシカが食べているため成長が止まってし まっているのが、一目で分かる。その実態を数字とし て記録に残していく作業である。

樹木の食害調査班は本谷山山頂までの、全稜線調査 を12時過ぎに終了して、山頂で昼食を済ませて下山。 定点観測地点へ戻ると、観測班はすでに作業を終了し ており、全員揃って下山開始で。午後3時前に尾平ト ンネル南口広場で本日の解散式。次回は来年の6月2 日(土)である。



(この日の調査参加者:尾平越トンネル南広場にて) 参加者…加藤英彦、飯田勝之、丹生浩司、石川洋祐、 遠江洋子、柳瀬里子、加藤タカ子(ほか植物研究会6 名、県自然保護推進室4名)

## 支部研修山行報告

神原川小鳥谷 沢登り(7月2日(日)) 指原里美(会友216)

コース 神原駐車場9時30分~入渓~神原川本谷~五 合目小屋 11 時 30 分~出合より小鳥谷~登山道へ~登 山道を下山~神原駐車場 16 時 15 分

講師:安東桂三

参加者:笠井美世、指原里美、佐藤秀二、田所歳朗、

松浦一幸、山岡研一

オブザーバー参加:木原いずみ(日本山岳ガイド協会 登山ガイド)

夏の青年部沢研修は3回あり、今回は2回目、初級 の沢登りであった。

1 回目に山行報告の原稿を書いたので、次はきっと 誰かが書いてくれるだろうと安心していたら、なんと 3回とも私に書くよう指令が下った。・・・頑張ります!

さて、本題に入るが、当日は天気にも恵まれ、1回 目の沢歩きですっかり沢好きになった私は、沢歩きも 沢登りも同じように考えていたが、甘かった。

今回はほぼ全身水に浸かり、カッパの上下と濡れた 服の分、体は重く、動きにくい状態で水の中を進み、 岩場を登るなど、かなりいいトレーニングとなった。 この日は暑かったのに、ロープの順番を待つ間など、

じっとして動かない時は体が震え、沢の寒さも体験した。

今まで、沢や滝は、マイナスイオンが気持ちいいね、 など呑気に見て楽しむものであり、まさか自分が沢登 りするとは予想だにしなかったが、やってみると楽し い。

沢では今回、2人1組の4パーティとなり、私は笠井さんとペアだった。笠井さんと1本のロープでずっと繋がっていると、存在が近くなり、お互いの距離が縮まったように私は感じた。その後のある出来事が起こるまでは。

それは、険しい崖の下で、ロープで登る順番を待っている時の事だった。上から「落」の声と共に、大きめの石が私達の前に落ちてきた時、笠井さんはとっさに立っている私の後ろに逃げ込んだのだ。幸い、誰にも石は当たらず、笑い話となったが、また一つ忘れられない思い出が出来た沢研修であった。

さて、参加者の振り返りでは

- ① 沢は読図が難しく、途中ルートを間違えたが、道 迷いに気付き、その後復旧できたのは良かった。
- ② ロープワークをスムーズに行えるように勉強したい。

などの意見が出た。

安東さんからは「チームワークを発揮できれば、個々の限界よりも高いルートに行ける」などのアドバイスをいただいた。

また、「ロープワークの振り子を次回までに覚えておくように」との宿題が出たので、8月で最後の沢研修に向け、予習復習を頑張ります!



## 支部研修山行報告

サマン谷 沢登り(8月19日(土)) 指原里美(会友216)

コース 尾平駐車場9時30分~入渓~サマン谷左俣~ 林道~尾平駐車場14時30分

講師:安東桂三

参加者:笠井美世、指原里美、佐藤秀二、生野栄城、

田所歳朗、松浦一幸、山岡研一

オブザーバー参加:木原いずみ(日本山岳ガイド協会登山ガイド)

今回は、いよいよ沢研修3回シリーズの最終回、尾平登山口からのスタートだった。快晴で、私はここから眺める祖母連山の景観が大好きである。山も渓谷も美しく、見飽きる事がない。

この日の沢登りは3パーティに分かれ、3人で1本のロープにつながった。沢を登り始めた時、田所さんより白い岩は滑りにくく、黑い岩は滑りやすい傾向にあると教えてもらった。なるほど、意識してみると全くその通りであった。

そして、今回も積極的にロープなどを使用した。ただ、ロープを使って崖を登る時は、ついついロープばかりを頼りにしてしまったが、そうではなく、自分の手足をメインに使ってロープは補助的に使うようにとアドバイスをもらった。今後も気をつけようと思う。

また、岩登りの際、最初の一歩が出ないような、足がかりの無い急な岩を登る時には、パートナーの手や肩を借りて最初のステップにする方法もあると教えてもらい、実際にそうやってみた。人の手や肩に自分の足をかけることは躊躇するが、そうする他ない場合はやむを得ず、また仲間がいてこそ出来る事だと思った。

こんな風に、皆さんに色々と教えてもらい、またチームワークの大切さも実感した。やはり実施は大変勉強になり、またまた有意義な一日となった。その上、今回は8月で、前回の沢登りより水温も高い為、寒さで震える事も無く、沢で泳いだ時も快適であった。

途中、メンバーの1人がヒキガエルを発見し、ヘビもカエルも、生き物なら何でも大好きな私には嬉しい出会いだった。やっぱり山はこうでなくっちゃ。

あっという間に楽しい沢登りも終わり、自分自身大いに反省する所があったが、安東さんからのアドバイスは以下の通り。

①カナビラやエイト環は、ハーネスの真ん中につけず、

左右に振り分けてつける。

- ②メインロープはハーネスにダイレクトにつなぐ。
- ③ザイルサラダにならないように、常に考えて行動す る。
- 4)正しいロープワークを素早くする。
- ⑤ハーケンとハンマーがあれば、安全度がかなり上が り、世の中が変わる。

次にいかせるように、しっかり覚えておこうと思う。 楽しかった沢研修も、夏も、終わりだなぁと思うと寂 しいが、安東さんが「来年は本物の沢登りをしましょ う」と言ってくれたので、2018年も楽しみにして います。安東さんを始め、皆様には大変お世話になり ました。ありがとうございました。



### 個人投稿

### ペン リレー・第25回

## 谷川島の思い出

福 丸 勇 三 (13281)

高校3年生の夏休みに、東京で菓子販売会社のアルバイトをしてましたが、ある日、水上温 泉で半日であがりとなり、近くの観光地へいくことにしました。ロープウエイと一の倉沢の看 板を見つけ路線バスにて、まずはロープウエイへいきました。



天神平で散策していると観光客のひとに声かけてもらって、麓から自家用車にて次の目的地である一の倉沢へ移 動しました。この日は上部雲がかかり、流れ落ちる水音が反響し、また岸壁登るひとの声がときおり聞こえてまし た。

当時は魔の山と呼ばれいているころで、山と渓谷などでみていたのでここかーと思いました。大分ではこのスケ ールにまだ出会ってなかったので、特に強く印象に残っています。

その後社会人になり、日本アルプスなどに行くようになりましたが、それぞれに季節やルート、山行で出会う人 達との会話も楽しみです。まだまだ行ってみたいところが多いのですが、山行を増やすにはもう少し時間に余裕が ほしいですね、とりあえず。

次回の執筆を久保洋一会員(14168)にお願いしました。次回のペン・リレーもお楽しみに。

## 全な登山のために<sub>NO26</sub>

『祖母山 黒金尾根』その続き 安東桂三 (9193)

岳人という山岳雑誌がありますが、その岳人(2017 年4月号) に以下のようなエッセイがあった。紹介。 遭難寸前 岩田京子(山岳ガイド)

登山を始めて間もない頃、遭難するのではないかと いう恐怖を味わったことが2回あった。ひとつは、九 州の祖母山に登ったときだった。行きとは違った道を 下山しようと黒金山尾根へ向かったところ、天狗の岩 屋あたりで知らないうちにルートから外れて崖のなか に迷い込んでしまった。ズボンは破け、体中にアザを 作り、ヘッドライトの灯りを頼りにやっとの思いで下 山した。私にとっては命の危険を感じる初めての経験 だった。……(以下、略)。

前々回の「より安全な登山のために No24」で、祖 母山の黒金山尾根の道迷いについて考えたが、その執 筆後、岳人の4月号の山のエッセイのコーナーにまさ に黒金山尾根のことが書かれていました。岩田京子さ ん、現在は、日本山岳ガイド協会の認定登山ガイドと して山のガイドをこなし、プライベートでは、8000m 峰の幾つかにトライしている女性で、少し気になるガ イドさんです。

その彼女は登山初心者のころ、祖母山の黒金山尾根 で迷ったと言う。その彼女も前々回記述したある登山 者と同様に滑落しなくてよかった。

また当支部の会友Sさんと、黒金山尾根のことを話 していたら、そのSさんも天狗の水場から間違えて沢 を少し下り、同行者からこの道は登山道でないと指摘 され、登り返して正規の登山道を下ったと言った。

このように道迷う黒金谷は、どのような場所かと気 になっていた。ただ幾人かが間違ったように、これを 下るのはリスクがあると尾平から遡行してみることに した。

今年7月29日に取りついた。29日の前日は大雨警 報が出ていたので水量が多いと予想したが、流域面積 が狭いので黒金谷に入ってしまえば問題ないと、尾平 の駐車場から奥岳川沿いの登山道を歩き、うるしわ谷 と川上本谷の出合いまで歩き、黒金山尾根へと登り始 めるところで沢装備を装着し入渓した。此処は黒金山 尾根への渡渉地点ではあるが、水多いので、登山靴で 此処を飛び石伝いに渉るのは不可能と思った。

川上本谷を黒金谷の出合まで遡行しようと試みたが、 水量の多さにあきらめて左岸を歩くことにした。左岸 には川上渓谷遊歩道があるのを知っていたから。その 遊歩道は廃道然として、数か所には、テープやロープ、 針金を認めたが、最近はあまり歩いてないようで、道 も流されていたりルートファインディングに苦労した。 途中よりロープを出し、アンザイレンし、沢に滑落し ないように確保しながら進んだ。

尾平を8時20分に出発したが、黒金谷の出合に着い た時はすでに10時50分、標高差200m弱に2時間半 もかけてしまった。このまま進むのは、下山遅れが心 配されるが、少しは黒金谷を登っておかないと状況が つかめないので、黒金谷の一支流、宋五郎谷の出合ま で登ってみた。最初の顕著な斜滝は(写真)、倒木に 支点を取り登り上がり、滑滝を進んだ。

宋五郎谷の出合に着いたのは12時前。標高は885m。 このまま天狗の水場 (標高 1470m) まで登るのは、あ まりにも無謀。昼食を取り本日の遡行は、此処までと 沢の下山を始めた。アンザイレンして下る。懸垂下降

過去に幾人かの迷った登山者は、これをヘッドラン プを頼りにしたり、蔓を頼りにしたり、滑り落ちなが ら下ったと思うと必死であったろうと推察された。あ まりにも悪い。黒金谷の下りはもちろん川上渓谷遊歩 道も廃道同然。よく亡くならなくて良かった。

ところで、川上渓谷については、平成7年発行の『大 分のハイキングコース 100』(大分合同新聞社刊)の P85 に奥岳川源流コースとして一部が紹介されてい る。これによると「遊歩道部分だけでも原生林と渓谷 美は十分味わえるので、あまり奥まで入り込んではい けない。登山用のザイル(ロープ)が必要だし、何よ りも沢登りの技術を要求される」とある。

どこまでが遊歩道で、どこからが沢登りか、判らな いが、付属の地図によると標高 750m付近が境と推察 された。だが現在では遊歩道は出だしの50m程度。本 年の6月14日に当地区はユネスコエコパークに登録決 定されたが、朽ち果てようとしている案内板と廃道同 然の遊歩道をどうしたものか。

それに正規登山道をはずれ、困難な沢を下る読図出 来ない登山者もどうしたものか。最近は道の悪いのを 当該の自治体の責任にしたり、クライミングでも、支 点(ボルトなど)が外れたら、それを設置したものの 責任にしたり他力本願が多い。

登山は自己責任と呼ばれているが。かってはハーケ ンでも、「このハーケンは、しっかり効いているか」 と確認したり、ルートも自分で確認したりしていたと 思うが、この頃はどうも自力より他力(スマホ、他人 の報告ブログ、テープやその他)に依存していること が多いように思う。

#### ≪悩み≫

上記のように思ってみても、実際黒金谷に迷う登山 者がいることにどう対処するか。これが悩み。天狗の 水場にロープを張って進入禁止の看板を立てるのも一 案。ただこれは設置した以上、毎年のようにロープが 外れてないか、進入禁止の看板が立っているか確認せ ねばならない。大雨が降れば流されてしまうかもしれ ない。またこの設置は自治体や関係官庁に必要な手続 きを取らねばならない。

自治体や関係官庁に、道迷いの箇所を伝えるのも一 案。役所が進入禁止の看板を設置するかもしれないが、

朽ちた川上渓谷遊歩道の看板と同様になりはせぬか。 いろいろ問題がある。

少なくともこの『より安全な登山のために』の読者 は、迷うことはないだろう。また、近いうちに、黒金 谷の遡行調査に出かけようと思う。

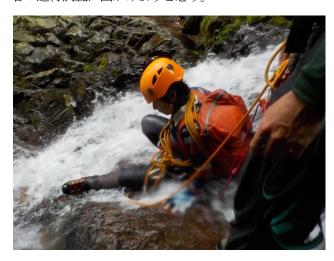


写真 黒金沢の下降 登るより、難しい下り。

#### 月例山行

## 私の参加計画(後半)

三角点と山城探検シリーズ第 23 回 安 部 可 人 (友 11)

予想ルートと参考の為,安部の視点で楽しい歴史を 述べる。

11 月「宗像四塚」「城山・金山・孔大寺・湯川山」地 形図「吉本」宗像四塚は地蔵峠・垂見峠の厳しい上下 敬遠して行かず、体力度危険度健脚向きです(覚悟し て行くべし)。手前の三等三角点城山・蔦ヶ嶽城 (369.3m)や許斐(コバ)山城(271.0m)のほうが一般向き 宗像市民人気の山です。その歴史、宗像氏貞は「許斐 城」「白山城」「蔦ヶ嶽城」と立派な城を持った。宗像 大宮司家をつぐため大内家の事情で急遽帰国して無理 な家督相続、氏男の正室菊姫、母堂、侍女6人を惨殺 (山田不動尊に墓)、怨霊は異変を起こして、パッつと しない氏貞は若死にした。惨殺の地の「白山城」(写真) は、足利尊氏が逃げ込んで再起したことで有名。立花 山城が近いから、氏貞は戸次道雪にいじめられた。 12 月「阿蘇外輪山」外周には若干の山城があり、歴史 は不鮮明。重廣恒夫さんと忘年会。\*彼の『エヴェレ ストと 100 名山3 6 5 日』 は3 回も読み返した。彼の登山技術以上に、遠征の資材計画の緻密さ・タクテイクスには感心します(頭脳がよい)。

1月「可愛岳」二等三角点 地形図「延岡北部」 西南戦争の薩摩隊の最後の会議の蝋人形の従者たち。人 斬り桐野利秋の墓は鹿児島の「城山」で西郷と最前列に並んでいる。別府晋介は「城山」の洞窟で隆盛切腹の介錯人です。登山口の資料館は何度訪れてもよい。西郷どんは駕籠で越えた、南尾根は2kmは楽だが、「ザレの平」から300m高度差はもうキツイ(西郷隊は途中で消えた。私も消える)。60歳は帰途は長い北尾根、「御陵伝承地」に下山した。なお、竹田では巡査を斬首した薩摩隊、住民を徴発して迷惑な西南戦争の西郷どんは尊敬できない。

2月「八方ヶ岳」二等三角点 地形図「八方ヶ岳」今年度ベスト 9年前、飯田・遠江・安部の3人組は矢谷橋取付、谷間を東へ800m 鞍部(穴川と合流点)へ(読図楽しい)。985mの町境は岩壁超急通れず、鞍部は南方向の源流を500m巻いて班蛇口合流の尾根へ(940m 台地と団子の岩記号辺りロープとネットの遭難現場通過が魅力)。稜線の漫歩10分、山頂は霧の中、特異な「カニのハサミ岩」を見て、うんざりする植林を下った(上虎口に下るな)。

歴史 市境南側の菊池市では、戦国時代は菊池武光に 代わって家臣の隈部家永が親分、縦走路を西3kmに 「猿返山」(682.4m)が家永の「詰め城」、山麓の桑原 に家永の館城(342m) (国史跡公園) はある (神社・山 城記号)。有名な「肥後一揆」では秀吉の両成敗、佐々 成政と隈部親子は殺された。籠城住民「撫で斬り令」 の秀吉は狂っていた。師匠信長と同じく「徳」がない。 3月「目丸山」地形図「畝野」三等三角点 20年前、 青石登山口~70分「馬子岳」分岐1280m(妻は待機) ~15分~目丸山。1162m まではキツイが、モミ、カ エデ、ミズナラの混成林巨木も多く、平坦な快適な散 歩道となる。「馬子岳(1150m)」は月例山行で東の内大 臣から崖を登っている。(歴史) 肥後の名門・阿蘇惟豊 没して、惟光4歳が阿蘇大宮司、薩摩侵入、目丸山に 隠れる。(注)「椎矢峠」昔、椎葉でエノハ釣りの帰途 この峠を一度だけ通過した。現在は崩壊で廃道化した。 飯田・久保・下川伝説の快挙は、「鞍岡の黒峰」(安部 車送り)~向坂山~椎矢峠~国見岳~椎葉越え(安部 水デポ支援、TVの民宿「焼畑」泊)〜銚子笠〜江代 山~湯山(安部車迎え)\*吉川満『九州脊梁の山々』、 その67山はまだ30山残る。

4月「万年山」一等三角点 地形図「豊後中村」町田 の黒猪鹿からのんびり自然歩道は、オシガオノ台から 草深く道が見えなかった。玖珠の歴史といえば、帰途 は大隈・消防署裏の船岡神社がお勧め。長野館城・船 岡3等(389.7m)は2分。伝説の殿様清原正高が三角点 の高台に館を構えて玖珠を統治した(あんべ よしと) \*7月号の修正「くたみわかれ」=救民わかれ、救覃わ かれ、噴火していた久住山は救覃クタミ峰(朽網山)と呼ば れ、山麓には朽網川が流れていた。地名から朽網宗暦と 称したカ。



白山城(山 田不動尊)



玖珠の長野 城

## 私の無名山ガイドブック(第66回) 清水/元(026.0) 台(773.9)

飯田勝之(10912)

今回も津江のヤブ稜線歩きだ。前津江の背後に、横 に大きく主稜線を延ばす津江山系の盟主釈迦岳から、 赤石の谷に向かって幾つもの稜線がヒザ模様で流れ下 っているが、その中でひときわ目立つ二つの稜線があ る。一つはこの主稜線を水源にしながら高瀬川と赤石 川の全く違う水系に分ける稜線で、その稜線上で大き なコブを作っているのが清水ノ元。もう一つは、赤石 川の上流の大野川を二つに分ける大きな稜線で、大野 の谷に高くせり出している。その稜線の端にあるのが

#### 台である

#### 清水ノ元

釈迦岳山頂北にはまるで氷河のカールのように、ス プーンで削ったような谷があり、その真ん中から稜線 が生まれて、両側の主稜線より大きくなって北に発達 して、高度を下げながら高瀬川と赤石川の間の大きな 稜線台地の始まりとなっている。その稜線の最後の9 00m台のピークがこの地点である。

ここへ登るには、座目木から市道を上るとスーパー 林道に合流する。そこから日田よりに700mほど行 くと右手(北)に分岐する荒れた林道がある。この林 道を入り口にするとよい。ここを入ると約5分で林道 が大きく右に山腹を巻き始めるので、そこから左の鞍 部へ踏み込み、北に向かって斜面にとりついて、スギ 林の急斜面を登るとよい。約10分で小ピークに達し、 一旦緩く下って10分ほど登り返すと小ピークで、さ らに小さく下ってわずかに登れば三角点のピーク地点。 東西に少し長めの山頂部の東によったわずかに低いと ころに四等三角点がある。スーパー林道から容易に達 せられる。

25,000 分の 1 地形図: 豊後大野 参考タイム 林道~30分~清水ノ元

### 台

釈迦岳から椿が鼻に向かって延びる稜線の中ほどの 1000mの小ピークから北に派生して大野本村の谷 間に向かって続く長い支稜線は、スーパー林道で切ら れた後もアップダウンしながら高度を下げていく。そ して、この三角点のある小台地から一気に本村へと高 度を下げている。

ここへ登るには、座目木から浦の寺を経て椿ヶ鼻へ 通じる市道を上るとすぐに、竹の上集落に分かれる三 又路がある。これを右に集落へと入って最初のヘヤピ ンカーブが登り口によい。カーブ地点のすぐ上に大き なエノキがあり、その横を通り水田の中を上るコンク リート舗装の農道がある。この道を登ると田圃の端に イノシシやシカ避けのゲートがある。ゲートを通りそ の先の草つきの林道を登ると、林道は稜線を越えると 山麓を水平に巻き始めるので左手のヒノキ林の緩斜面 へ踏む。緩斜面の植林地の中を真っ直ぐに進むとやが て傾斜をまして急斜面となる。稜線から離れないよう にして急斜面をひたすら登る。20分あまりで一旦平 らになって、やや右にカーブし、小さく下って再び急 な登りとなり、植林地から天然林へと変わる。

露岩の多い急斜面をひたすら登ると15分あまりで緩くなり、稜線上の小ピークに達する。その中央に四等三角点がある。高さのわりには達成感の味わえる登りである。

25,000 分の1地形図:豊後大野

参考タイム 竹の上~10分~稜線~50分~台



## 大分百山完登

(No 4)

#### 大分百山を終えて

#### 宮 原 照 昭 (15735)

私は、山に登って見たいと思ったのは、会社の定年を控えて定年後どう人生を描くかわからなかった時、一人で富士山のツアーに参加した。最初は今までは富士山なんか登れないと思っていたが、苦しい中完登したときの達成感!これからは趣味として登山したいなと思いました。

帰ってきて一人で久住山を登って見たけれど無理と思っていたとき、目にしたのが合同新聞の東九州支部の第1回登山教室である。一人で参加しました、登山教室は登山の知識がなく習得する知識が多かったが、終了時に登山をしても体はもちろん技術が乏しく、空しく1年は終わったが、すっきりしなかったので又1年登山教室に再び行きました。そして、会友になって月例登山に参加しながら登って行く中で、支部長のグループに一緒に登るようになりました、特に大分百名山の先輩の仲間達を見ていると凄いなと思い、楽しく登山をしている姿を見て私は出来ないと思いながら一緒に付いて登りようになりました。

それから私も大分百山を完登するため少しでも皆に近かずけると思うになり去年安倍さん・河野さん・上田さんの 大分百山を祝う会で、皆の前で私と櫻井衣里さんと若月美智子さんで誓言しました後、土屋多喜子さんも加わりまし たが余裕がない中、大分百山を早く登りたいと思いやっと完登しました。

よく大分百山の中で、楽しい山とかつまらない山とか聞かれるが私は答えが出ません、それは余裕なく登山したからだと思います。きつかった山は、祖母山・障子岳・桑原山・木山内岳など奥深い山々です、又一人で登った山は、まだ地図が読めないため道を間違った華岳・御座ケ岳・樅木山などの登山口がなかなか見つけられなかった山々が印象に残ります。

皆と一緒に苦しい中頂上に着き、降りて温泉に入り、又現地の郷土料理を食べたりして楽しい登山もたくさん経験しました。これからは、楽しい山登りになるようもっと日本の山とか外国の山も登れるように勉強して行きたいと思います。

## 檐·穂高縱走二題

## 大キレット山歩き

清水道枝(会友177)

大キレットに行く計画をしていると聞き、空きがあれば 参加したいと伝えたところ快く了承して頂き、願いな なっていよいよ出発の運び。道中すべて車移動で運転 された男性3人には本当にお疲れ様。そして感謝です。 私にとって槍~北穂の間は行ったことのない区間。険しい所なので、無縁のところと思っていました。

南岳小屋からのいきなりの険しい下り。天気もよくなく、気が抜けません。でもうれしい気持ちが強く、楽しんでいる自分がいます。降りるところは自分なりにちゃんと確認。注意深く降ります。登りで足が届かないところは少しの足がかりを見つけて登るようにして前に進みます。

雨風も止み、霧が晴れて振り返ると大キッレトが見え ます。前には常念や蝶槍が見え、1ヶ月前に縦走した山 並みは見ていてあきない景色で感慨もひとしおです。 右の岩場を見上げると北穂の小屋が見えます。

小屋のホットミルクで体を温め昼食タイム。まだ涸 沢岳と続きます。以前北穂に登っている時に涸沢岳か ら下りてくる人を見て、登る事を躊躇した記憶がよみ がえってきます。急登だったことと、そこを必死で登っ た記憶しかなく大変だったことを覚えています。

さすがに皆、疲労の色が濃く疲れが見えます。やっ と稜線に出ます。頂上はもうすぐです。先頭をきって道 案内。あとは一気に穂高岳山荘まで下るだけ。やっと 一本の線に繋がることができました。槍・穂高縦走。 皆さんお疲れ様でした。そしてありがとう。

(H29. 8. 26-31)



#### 笠 井 美 世 (会友 211)

1日目、地図が読めるようになりたい。地形図が久保 さんのように3Dに見えるようになりたいと思い、上高 地から地形図を確認しながら進む。青空の下、梓川をは さみ明神岳と前穂高岳のいくつものピークが連なる。沢 添いを歩き槍沢ロッジに到着。明日歩く道の方角を見る と木々の間に槍ケ岳の頭が見える。山小屋でのんびり過 こす。

2日目、2時35分槍沢ロッジを出発。前夜は眠れず 体が重い。しかし、歩いているうちに地図で見ていた地 名が出てくると、もうこんなところまで歩いたのかと嬉 しくなる。暗い中雪渓が見え始め、遠くの山並みが姿を 現し、笠をかぶった富士山が朝焼けに浮かぶ。

突然、槍ヶ岳が目の前に姿を見せると一気に目が覚め た。昨年笠ヶ岳から黒部五郎岳まで縦走した時は穂高か ら槍ヶ岳までを眺めながら歩いた。どこから見てもとん がった頭が小さく見えていた。今回の槍ヶ岳は大きくど んと座っている。

急に元気もわいてきてお花畑も楽しんだ。槍ヶ岳の岩 に取りつく。少し緊張し登り詰める。そして山頂。36 0度の大パノラマ。

山頂で下山の順番を待っていると「体を離して足元を 見るんだ」とガイドさんが話している。今まで何度も言わ れてきた言葉を思い出した。下りでは「足・足」と意識し て歩いた。私たちが下るとガスがかかり始めた。

南岳小屋まではガスの中。大喰岳まで引き返したり、



(槍ヶ岳山頂にて)

途中地図にない新しいルートに迷ったりして、何とか南 岳小屋に到着。

3日目、予想外に天気が悪くなっていく。若い人の中 には大キレット通過をあきらめた人もいる。リーダーの 判断で決行。外に出ただけでガスと風と小雨で息苦しい 気もする。歩き始めるとほどなく長いハシゴとクサリ場 が続く。金属のハシゴは滑りそうになるが、体を離し足 をよく見て一歩一歩丁寧に下る。飛騨側からの風は強く 吹き上げるが、信州側に立つと風がぴたりとやむ。

幸か不幸か、視界はない。長谷川ピークではリーダー がロープを出し、カラビナを通して歩いた。リーダーが ロープを片付けている間、ルートを探していると前から 来た人が足場を教えてくれた。よく顔を見ると訓練登山 でお世話になった幡手さん。なんとこんなところでお会 いするとは。

A沢のコルからは、またクサリを伝っての登り、鉄杭 の直登。細尾根を鉄のステップとクサリでトラバースな ど難所の連続だった。あっと言う間にガスが晴れ始めた かと思うと、今まで歩いてきた道が見え始め、槍頭がチ ョコっと見える。空の青と山の緑。展望台からは圧倒さ れそうな滝谷の大岩壁が見える。

北穂の小屋で休憩。リーダーの「奥穂の小屋まで行きま しょう」の声に重い腰を上げた。晴れ間はなくなり天候も 悪くなる。長く険しい道のり。何度もケータイのGPS や地形図で確認するが、予習をしたのに地図を見ても実 際の状況を確認できない。リーダーを追って歩くが、前 が詰まってくると高所を意識してしまい急に不安になる。 難所を越えたかと思うとガスの中からまた黒い壁が現れ、 また取りついていく。パニックにならないように呼吸を 整えて歩いたが、過呼吸のようになってしまった。

後で考えると怖いと思うところもきちんと見て、状況 を知って行くべきだったと思う。涸沢岳に到着した時は 恐怖から解放され「生きてる」ことに感謝した。

朝6時15分に出発して18時ごろ穂高山荘に到着。 小屋のご主人に、余りに時間がかかっているので岳沢でなく涸沢に下ることを勧められた。時間切れで弁当の予約はできず、夕食時刻も遅らせてもらった。

4日目、小屋から奥穂高岳へピストン。3190m。 ガスの中高く祠がそびえ立つ。ザイテングラードを下る と涸沢カールの美しい景色が広がる。ななかまどが赤く 色づいた景色に思いをはせた。

ルート変更により長距離を歩くことになり、上高地最 終の時間が気になり始めた。ツキノワクマ出没注意の看 板に緊張したり、靄がかかった幻想的な池を見たり、雨がやむと虹が出たり・・・

三点確保とルートファインデング、地図の見かた、歩き方、装備、時間などなどまだまだ勉強することは たくさんあるが、今回の山行が本番であり次の訓練になっていると感じた。晴れた日にもう一度訪れたいと思った。

はでてヒッラや街道と行くリンドウの花野がんばれ真向いてその青親う空は広いよドートコシに架かる吊橋四ヶ所渡る いよいよ始まるナムチ 難坂高地順 たせじと1日とどまりて 土地の子供の遊びに入る青空にタルチョはためくその奥の 白き 峰中こぞヒッラヤ でニートコシの川音はるか下に闻き サルオが七下る森の中行くモレーン透きてゴジラブ水河は ドートコシに川流すでに水量多しエ四〇〇米ドーレの丘のリンドウは 紫うすし風に揺れどりドートコシの川音はるか下に闻き サルオが七下る森の中行くモレーン透きてゴジラブ水河は ドートコシに帰流すでに水量多し エロ〇〇米酸素は薄く繰り返す サルオが七下る森の中行くヒッラヤの白き峰より吹く風に 生き来し汚れ委ねて放っ直音な空に峨峨たりヒッラヤ連峰 神等は居ますかこれの世界にだ李と思ひどーレの谷下るなりなだり一面石楠花林バザールに人・物あふれ異国語の 飛び又・中の母に信り ハローッと寄り来て我に物を売る少年の がしき色よ
「オムマニペメフム」唱ながらにマニ石と「耕して天に至る」を諾ひて眺むるネパール天室の畑
ヒマラヤトレッキング

### 会務報告

## 平成29年度 支部合同会議報告

支部長 加 藤 英 彦 (8765)

月日 平成29年9月23日(土) 24日(日) 場所 東京 主婦会館 プラザエフ

出席 全国33支部支部長、事務局長 本部会長以下 理事12名 各役員15名、東九州支部出席(支部 長、事務局長)

「会義次第」 1日目

会長挨拶…会は年会費とボランテアで成り立ってい

る。会員増強、支部、ユースクラス、活性化を縦糸に 会員サービス、収益事業を横糸に、準会員91名、新 会員カードによる会員サービス(山小屋、用品店、 旅行会社等)。収益事業で28年度財政赤字圧縮、会費

旅行会社等)。収益事業で28年度財政赤字圧縮、会費 免除は永年会員からの寄付250万円、6月の総会で 役員改選、組織改革に取り組んだ。元気な山岳会にし ましょう。今日の会議有意義な会にしましょう。

会務報告…1. 記念事業委員会設置について 2. 支部活性化について 3. 支部の山を海外発信することについて 4. 会計報告について 5. 寄付金の扱いについて 6. 再生事業の推進について 7. 「山の日」のイベントについて 8. 安全登山について以上 予め用意されたレジメに基づいてそれぞれの担

当委員長からの説明、解説がなされた。

例えば支部活性化については1) 現状把握2) 実施 案3) 教材の作成 登山教室実施カリキュラム 等 まさに東九州支部が取り組んでいる「登山入門教室」 がこれに当たる

安全登山については1) 高齢者の事故、遭難2) 安全 登山に向けたアンケートの結果より3)「個人山行は自 己責任」「したがって支部には責任はない」という考え は間違っている。

この論理は山岳会内部の論理、事故あってマスコミ が報道する時は「日本山岳会が事故をおこした」とい う報道がなされる。これは支部の山行、個人山行すべ て同様に扱われる

個人山行を行う側は危険を引き受け自己責任を理解、納得して山に入るが、支部本部役員は常にそのリスクを負い、責任を覚悟しておかねばならぬ。今回の広島支部の事故がまさにこの点をあらわした事故である。そのためには「個人山行のチェック体性」が必要である。計画書の提出とそのチェックを行う組織、仕組みを支部毎に実施してください

・ 広島支部山岳事故について

8月29日幌尻岳にての事故概要報告書(部外秘)に基づいての詳しい説明があった。

またこれに関しての様々な意見、感想などがだされた。監督官庁の内閣府より指摘があった、年内の結論をだす。それまで支部は活動休止だ。

このあと質疑応答があり、17時20分終了。このあと場所をかえて全員での懇親会(会費3,500円) 2日目

- 1. 意見交換会—1. 入会者の増強に向けての意見交換 2. 会員数の現状とこれからの方針 3. 日本山岳会の現状と課題 4. 準会員制度の取り組みについて意見交換
- 2. 会員数を増やすための方策 1) 準会員制度 2)
- 3. 登山教室や講習会の実施 3)会員特典等の強化 4) HPの強化5)会員ひとりひとりによる入会 の誘いかけ 、これは会員の危機感の共有

日本山岳会の支部として「山の日」の行動を起こそう。日本で最大かつ唯一の全国組織をもつ山岳会として登山を普及させる義務があることの自覚が必要だ。 社会での知名度をあげその栄光の歴史を再評価する活動が必要だ。支部活動を活発化するための知恵、地域の新聞社、マスコミ、市長村と提携しての取り組みを始めよう。親子登山教室、安全登山講習会、自然観察 教室、森つくり運動 等

「支部会員および準会員増加対策」と「支部の事故防 止安全対策」のアンケートの報告およびこれらに関し ての意見交換会。

1) 報告事項

「支部事業情報交換、交流会」の報告 ホームページの作成について、

2) 連絡事項

年次晩餐会と29年支部長会議について 指導者の安全対策講習会の開催 平成30年度全国支部懇談会の開催 北海道支 部事務局からの連絡

以上 閉会12時丁度で2日間にわたる会議であった。



(支部合同会議・9月23日・プラザエフにて)

## 登山入門教室開講

飯 田 勝 之(10912)

### 開講式と座学

第5回目を迎える東九州支部主催の登山入門教室 (後援:大分県教育委員会・大分県山岳連盟・大分合 同新聞社・OBS大分放送局・TOSテレビ大分・O AB大分朝日放送・エフエム大分)が、さる9月20 日開講された。今年の受講者は20名で、受講者の山 歴を見ると北アルプスの主要コースの縦走者や、海外 のトレッキング経験者から、山登りを始めたばかりの 人まで多彩である。

20日の開講式で、加藤支部長が「昨年から正式に

山の日が始まりました。山に親しむ機会を得て山の恩 恵に感謝すると言う趣旨で、8月11日が新たに国民 の祝日となり、これを機会に山に登る人たちの増える なか、山登りの基礎から学んで、安全で楽しい山登り の仕方を学んで欲しい。本支部には日本山岳会の会友 制度もあり、受講を機会に加入して一緒に山登りを楽 しみましょう」とあいさつ。



(登山入門教室開講式)

第4回までの入門教室は座学が4回・8時限あり、 実践講座を二回実施したが、座学講座で聞いたことが 容易に実践に繋がりにくい、実際に山に登りながら教 わる方が覚えやすい、などの意見が多く聞かれたこと を受けて、今回から実践講座に重きを置いた構成とし た。座学は1回・2時限だけとして、実践講座を4回 に増やすこととなったのである。

オリエンテーションでは、これらの経緯を説明し、 実践講座には是非全課程受講するように説明があった。

最初の講義は本部から派遣して頂いた宮崎紘一・本 部事業部長の「安全な登山のために」(安全な山の登り 方・地形や読図など山登りの初歩から)で、主なテー マは「地図を読む」である。パワーポイントを使って の講演は、1時間15分、地形図の読み方、地図と磁 石の使い方などである。

この講座には、せっかく本部から講師を招いての座 学であるので、支部会員(会員・準会員・会友)にも、 希望があれば聴講出来る旨の連絡が行き届き、当日は 45名の聴講者がつめかけて、受講者の後ろの席で熱 心に聞いていた。

第2時限目は安東桂三副支部長の講義で「山の装備 や道具」で、山の装備や道具の選び方・使い方、いざ というときの備え。装備や道具をもとにした上手な山 道の登り方、歩き方などの講義であった。

#### 第1回実践講座・福万山

第1回目の実践講座は「実際に山に登る、その第一 歩から」で、身近な低山に登りながら、山登りの歩き 方や、登り方、登山道の見分け方、地図や磁石の使い 方など、山登りの初歩的体験しようというもの。

10月1日(日)午前9時に由布院青少年スポーツ センター駐車場に集まった受講生は14名。この日の 講師で山行のリーダーは安東副支部長。

先ずは駐車場で地図と磁石の使い方の基本から練習。 そしていよいよ地図と磁石で山歩きの実践である。受 講者を3人ずつの班に分けて、それぞれが登山道から 逸れた最初の四等三角点(751m・現在休止中)を目的位 置にして向かって、読図の実践。

さらに、福万山西の鞍部から林の中の独標(1046m)の 目標値地点へ読図の実践。たどり着いた独標地点の台 地で昼食のあと、福万山目ざして登山開始。山頂は



(福万山の山頂にて)

薄曇りの天気で、眺望もまあまあである。

下山はゴルフ場に向けて、急斜面の下りで、足の裏 全体を使っての山下りの実践である。午後3時過ぎ、 全員がスポーツセンター駐車場に下山。ここで1にと の反省会をして、次回の鹿嵐山での実践講座登山の再 会を約して解散した。

### 支部の会議等の報告

#### 支部役員会

**第3回役員会** 7月21日 (金) コンパルホール

- 1. 第5回登山入門教室のについて
- 2. 第15回青少年体験登山大会について
- 3. 山の日登山について
- 4. その他

#### **第4回役員会** 9月8日 (金) コンパルホール

- 1. 第15回青少年体験登山大会について
- 2. 第5回登山入門教室のについて
- 3. 韓国山岳会との交流登山について
- 4. 支頭位60周年について
- 5. その他

#### 第5回役員会 10月18日 (水) コンパルホール

- 1. 韓国山岳会との交流登山について
- 2. 京年会と京年登山について
- 3. 第5回登山入門教室のについて

#### (龍神伝説の山)

- 4. 支部創立60周年について
- 5. その他

#### 山の日登山実行委員会

**第1回** 7月6日 (木) コンパルホール

「山の日」行事の打ち合わせ

**第2回** 7月21日 (金) コンパルホール

「山の日」登山 in 大分・霊山 の実施1種の詳細す ち合わせ。

## お知らせコーナー

## 月例山行のご案内

### 11月月例止行:宗像四塚(湯)山・孔大寺山まか

(宗像三女神伝説の山)

日 時…11月23日(木)

出 発…1 1月2 3日(木)午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

参加申込は11月15日までに

リーダー: 木本義雄(097-551-9117・090-1465-5696)まで

メール kimotopapa@beach.ocn.ne.jp

### 12月月例山行:忘年登山

忘年登山と忘年会の頂参照

### 1月月例山行:可愛岳(727.8m)

(西南戦争とニニギノミコト伝説の山)

日 時…1月27日(土)

出 発…1月27日(土)午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

参加申込は1月17日(水)までに

リーダー:阿南東範 (097-597-7120・080-3187-2003)

メール beca5844@oct-net.ne.jp

### 2月月例山行:八方ヶ岳(1052, 9m)

日 時…2月18日(日)

出 発…2月18日(日)午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

参加申込は2月8日(木)までに

リーダー: 久保羊 (090-8353-9770)まで

メール yariho1953@yahoo.co.jp

### **3月月例止行:目丸山**(1439.9m)

(平家の落人伝説の山)

日 時…3月24日(土)

出 発…3月24日(土)午前6時00分

集合場所・・大分駅、上野の森口

参加申込は3月12日までに

リーダー: 津稲一(097-537-7301・080-6408-8000)まで

メール <u>asanos@po. d-b. ne. jp</u>

メール asanos@po. d-b. ne. jp

## 青年部のお知らせ

#### 第1回研修山行

月日 11月25日(土)

場所 扇山:アイゼンワーク

集合 場所 明礬のえびすの湯(明礬バス停)

時刻 8時30分

#### 第2回研修山行

月日 12月16日(土)

場所 高崎山:アイゼンワーク

集合 場所 田ノ浦ビーチの T ウェーブ付近 時刻 8時00分

※ 終了後懇親会を予定しています(場所:志高湖で予定。バーベキューとテント泊のキャンプ。11/25 の山行時に用意するものや役割を決めましょう)

#### 第3回研修山行

月日 1月28日(日)

場所、九重山

集合場所・時間等は別途連絡

#### 第4回研修山行

月日 2月24~25日

場所 山陰の山で雪山訓練を実施・場所は未定、テント 泊を予定)

出発 23日夜の予定

それから、青年部の方は日本山岳会の会員もしくは準会員への入会を前向きに検討してみて下さい。 宜しくお願いします。(青年部担当役員 田所歳朗)

※ 青年部(40歳代以下) 以外で研修に参加したい 方は、事務局まで申し出て下さい。意欲のある方を歓 迎します。

## 忘年山行と忘年会

今年の忘年山行と忘年会を次のような日程で実施します。 今年も毎年おなじみのゲスト、重廣恒夫さん(日本山岳会副会長)が山行と忘年会に出席します。年に一回の支部会員(会員・会友)が一堂に会する場です。みんなで和やかに、賑やかに集い楽しみましょう。みなさん万障お繰り合わせのうえご参加下さい。

杵島岳(13266m)

#### 忘年会

場 所 かんぽの宿・阿蘇(阿蘇市)の宮5936)

電話: 096-22-1122

日 時 12月9(土) 午後6時から

会 費 14,000円(10日の山行参加者の弁当は別)

受付 午後5:30~

#### 山行集合場形と時刻

12月9日(土):午前7時大分駅上野の森口 現地勢100場合: 道の駅「あそ望の郷・くぎの」

9時30分集合

12月10日(日)の止行こ当日の朝、現地勢加の場合かんぽの宿阿蘇 午前8時 集合

### 年次晩餐会に一緒に参加しましょう

会員でない。家族も同伴が可能となりました。みなさん一緒こ 参加しましょう。

月日…12月2日(土)

場所・・東京・京王プラザホテル:本館5F

**時刻**・講演会等:13時から 晩餐会:18時から

会費…15,000円(一人) 受付開始・午後0時30分から 講演会・午後1:00~5:00

図書交換会はか・午後2:00~5:00

#### 晚餐会記念山行

**日時** ·· 1 2月3日 (日曜日)

☆晩餐会の案内状は会報 10 月号に同封されます ☆申込み締切りは 11 月 10 日(金)です

### 支部役員会の開催案内

次の通り開催しますので、役員の方はご出席下さい

#### 第6回役員会

日 時・・11月20日(木)午後6時00分より

場所・大分市「コンパルホール」

議題・大分百山選定見直し

#### 第7回役員会

日 時…1月11日(木)午後6時00分より

場所・大分市「コンパルホール」

議題・①登山が繋車これで

2 60周年について

③ その他

#### 19

は、高齢化や会員の減少などの課題で、会員の増強と 併せて大事なことだった。それは、山岳会としての本 質に立ち返ることだろうと私は理解した。強調された のが、登山届けの励行だった。

・山登りが大衆化して歴史は長いが、黎明期の登山界は



#### 計 報

橘本祥案さん (会員番号4375・永年会員) は

10月12日に亡くなられました。(享年102歳) 謹んでご冥福をお祈り致します

### 新入会員·準会員·会友紹介

#### 平成29年度新規加入会員

大渡崇夫 29年5月加入(会員番号 16205) 唐津敏徳 29年5月加入(会員番号 16208) 尾登憲治 29年6月加入(会員番号 16228) 神田美代子 29年7月加入(会員番号 16235)

#### 29年度新規加入準会員

久知良美登里 29年1月加入(準会員番号A0017) 平成29年度新規加入会友

長尾幸徳 29年 7月加入 (会友番号 218) 長尾美江 29年 7月加入 (会友番号 219)

## 後記

本号の編集で支部行事以外の幾つもの山行報告を目に した。関連して、本部で開催された支部合同会議で特に大事なことが強調されたことと結びつけた。それ 自己責任の挑戦意欲に溢れていたようである。しかし近年、「連れて行ってもらう」登山者の列が山道に溢れ、誰もが容易に3000mに立つことが出来る今、それができる環境が当たり前であり、それが出来ない時には自己の無知や無力を忘れて、道の整備や標識の不備、果てはガイドブックに責任に転嫁する登山者があとを絶たない。

- ・山登りは究極の自己責任のスポーツで、全てが登る当人の体力と、技力と、精神力だ。だからあくまでも個人の問題である。しかし一旦事があれば、たちどころに個人の問題ではなくなる。家族はむろん、捜索隊や救助隊や、救助のヘリ(これは税金)。まして、山岳会というチームになれば、その所属メンバーであれば理由の如何を問わずチーム全体の問題となる。
- ・当支部は長年、支部行事以外の個人やグループ山行には、届けについてはほとんど支部として関知しなかった。それはあくまでも、個人のレクレーションであり、 プライベート登山に立ち入らないという意思表示であったのであろう。しかし数年前から登山届けの努力義務を訴えてきた。
- ・今再度、登山届けというテーマで、支部会員の意見交換が必要に思われる。自己責任力を高めるためにも、 山岳会というチームの向上をはかるためにも、そして個々の力の向上につなげるためにも。登山届けと山行の報告は山岳会の存在意義を左右しかねないと思う。

 $(K \cdot I)$ 

### 公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第79号

2017年(平成29年) 10月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田方

TEL·FAX 0977-21-3437

E - mail yamatomoki@ari.bbiq.jp